



李仙得建議

未現過
未現在去

第三篇

川路寬堂譯述

107
A4461



114
A 4461



李伊得建議

第三卷 過去 現在 未來

紀元二百年紀西元頃孔子ノ教初メテ日本ニ入
 レル君主權官之レヲ好ミ之レニ熱心シテ而
 シテ之ヲ學ビ之レヲ國內ニ弘メントシタレ
 之レガタマ却テ大ナル誤謬ヲ生シタリ何トナ
 レバ當時日本ノ人民ヲ強クテ其頭腦裡ニ置ク
 ニ支那流ノ意思ヲ以テセシメ人民ヲ勸導シテ
 孔教ヲ信仰セシメ遂ニ倫理法制等ヲモ孔門論
 理ノ書ニ依テ之ヲ改革セントスルニ至リ即西
 洋紀元三百年ノ頃一掃シテ日本固有ノ教ヲ除
 却シ之レニ代フルニ隣國ノ理学教法其他一般
 ノ文学技藝ヲ以テセリ之レニ依テ當時支那ノ

大 省

文字ニ暗キ人民モ其ハ孔教ヲ解シ得ルモノ
ナカリシニ何カ教育修身ノ道ヲ需ムルニ際ニ
暫ク孔教實際ノ主意ニ着目セズシテ而シテ只
其外貌習俗ノミヲ擬似シ之ヲ行ヒ之ヲ為シテ
自ラ信ズラク已ニ孔教ノ真義ヲ講究スルニ至
ルベシト然ルニ其實ヲ尋ヌレバ憐ムベシ僅ニ
孔門経学ノ初步ヲ窺ヒ僅ニ支那文章ノ短詞ヲ
述書シ得ルヲ以テ足レリトセシノミ
夫レ人民如此ク暗昧ヲ以テ時ヲ経シテ恰モ蜀
ヲ兼ラズシテ暗夜ヲ行カ如シ我モナクシテ遂
ニ倫理錯雜人道ノ何物タルヲ辨セザルニ及ベ
ク此時ニ當テヤ一人ノ終身学士言アリ云ク三
冬百物凋縮ス氷ハ氷ヲ結ビ地ハ霜ニ碎ケ艸ハ

凋枯シ木ハ葉落シ地上ノ活物殆シト皆枯死セ
ンヨス然リ而テ一陽ノ来復スルニ當リ春風初
メテ曛シ旭光氷ヲ解キ百物更新何ノ處カ新生
ナラザルハナク之レニ衣スルニ満目ノ緑ト映顔
ノ紅ヲ以テスベシ即チ我日本ニ於ルモ亦然リ
初メ孔教ノ入りシ其外面閑化ノミヲ羨慕シ
テ其精理ト意主トテ学バザリシガユヘ却テ修
身ノ道ヲ欠ニ至リ漸ク倫理地ニ落テ一有餘
年ノ間殆シト維網ノ滅スルニ及ビ然レモ
幸ヒニ未タ我神州ノ元氣ヲ悉ク滅却セザルガ
ユヘ再々今人民ヲシテ方向ヲ轉ゼシメ我固有
ノ元氣ヲ基礎トシテ而シテ之レニ交ユルニ外来
ナル孔教學術ノ精理ト主要トテ以テスベシト

是レ實ニ千古ノ金言、我コレヨリ漸ク日本
未曾有ノ開化ヲ引起シ初メハ支那ノ政體倫理
ヲ寫セシモノ、如ク視ヘタル氏遂ニ之レ我カ
固有ノモノ、如クナリテ人民ノ幸福盛華ヲ生
シタリキ
看ヨヤ今ヲ距ル五年ノ前日本ノ俊文傑士ガ其
心カラ盡シテ欧米ノ文明ヲ茲ニ寫サントセシ
一恰モ一千三百年ノ前支那ノ開化ヲ寫セシ時
ノ如シ蓋シ欧米諸州ノ盛大ナルヲ驚キ之レニ
蠢惑サレテ而ノ一千八百六十八年王政維新ノ
後忽テ奔シテ之レト競ハントセリ此時ニ當テ
急進ノ黨派ハ人民ヲシテ西洋ノ文明ナル法制
倫理ノ基本主要ヲ學ビ得セシムルヲ勉メズ

シテ只ダニ日本^{固有}倫理法制ヲ廢却セント謀レリ
然レニ其固有ノモノヲ捨テ之レニ代ルニ何ヲ
カ以テセン恐クハ海外ヨリ輸入セル政法文學
ヲ借ルトモ之レヲ用ヒ之ヲ施スノ方術如何ヲ
知ルヲ能ハザルベシ偶々英俊ノ士日本ノ進歩
ニ熱心スルモノアリト雖氏文明ナル欧米各國
ニ於テ其法制政體ノ基ク浩々タル人間自由ノ
理ヲ全ク解シ難ク又之レヲ勉學セシトサナク
シテ而メ神孫継統タル帝王專治ノ帝權ヲ減セ
ントシ或ハ尙才一步ヲ進ミタル國體ニセト
希望スルモノナシト言フ可ラズ何トナレバ米
國共和政治ガ非常ニ盛華ヲ極ムルガエヘ之レ
實ニ至善ノ政體ニテ人^人民ノ幸福ヲ需ムルニ

於テ之レニ卓越ス
ニ依テ人間欠ベカラザルノ道タル男女親子
臣ノ倫モ日本古来ノ風俗ヲ廢シ全ク外國ノ法
律倫理ヲ寫サント此レヨリ昔時日本人民ノ自
ラ賤シテ多ク從事セザリシ所ノ商務工業ヲ以
テ全ク人民ノ常務トナサシメ之レヲ賤ムルノ
俗ヲ變シ且此大ナル變革ヲ固定シ再ニ動クベ
ベカラザルノ方向ヲ確然タラシメンガツノ驟
雨ノ降ルガ如ク卒然舊章舊風ヲ洗却シ一時ニ
改革ノ業ヲ全クセント圖リ遂ニ天照太神ノ頂
ヨリ用ヒ來レル日本ノ言語マデモ之ヲ廢シテ
而メ方今世上通商ノ權ヲ專占セル富國ノ語ヲ
寫シテ日本語トナサントスルニ至レリ其他急

進ニ着目シテ既ニ百方ノ改革ニ着手セシモ
牧擧ニ暇アラズ夫レ今急進ニ致々タルノ徒ガ
農高エノ業務ヲ洋法ニ倣ヒ盛大ニ從事擴張セ
ント欲ト虽氏其業ヲ執リ其事ニ當ルノ人ヲ視
ルニ其志ハ美ナレド氏其業務ノ学識ト實地ノ
經驗曾テアルトナシ故ニ縱令暫時ハ繁榮ヲナ
スト雖氏幾モナクシテ其産ヲ破ルニ及フモノ
比々タルベシ然レ而メ一朝其産ヲ破ルヤ忽
チ斯ル進歩ノ輕々ニ出タルヲ覺リ大ニ之ヲ悔
ヒ再ニ斯ル盛大ナル事業ニハ必ラズ從事スベ
キモノニ非ズト自ラ銘心スルト書ヲ讀テ悟ル
ノ類ニアラズ
凡ソ人民一ニハ流行セル輕進ノ大氣ニ

感シ又急進派徒ノ
 蓄財ヲ出シ已レ
 ルノ人ヲ助ケ之レヲ信ジテ大金ヲ委托シ已レ
 モ其新業ニ依テ利ヲ射ント圖ルベシ然レ其
 委托信任ヲ受ケタル人ハ歐米ノ盛事業ヲ未タ
 熟シタル人ニ非ズ又其規程通法ヲモ知ラザル
 モノニシテ其實地ノ經歷試験ヲナシテ后其業
 方ヲ民間ニ普ク傳ヘシト欲セシ所ノモノナリ
 然ルニ初メテ其盛業ヲ經驗スルヤ惜シムベシ
 忽テ破レテ殆ント其産ヲ倒スニ至レルガエハ
 西洋ノ業方ハ實ニ人民ヲ不幸ニ陥ラシムルモ
 ノト認メ而メ未タ其味ヲ熟知スルニ及バズ去
 テ再ビ其業ノ手ニ觸ル、ヲ嫌却スルニ至ラン

且夫レ此時ニ當テヤ初メ急進黨派ニ激動サレ
 財ヲ拂テ其新業ニ與セシ、金主輩モ初メノ銳
 意ニ及シテ百事ニ不信ト疑圖ヲ生シ彼ノ新業
 ハ頼ムベカラザルモノト思フ、必セリ然シテ
 再々其輩ト洋風ノ盛大事業ヲ語ラント欲スト
 モ豈得ベケンヤ金主ハ皆竊ニ其財ヲ蓄ヘテ人
 間ニ露サバレルヲ欲スベシ
 方今華士族ノ家祿ヲ奉還シ其資金ニ依テ業ヲ
 営ミ産ヲ興サント欲スルモ亦果シテ然ラシヤ
 且夫華士族ガ農工商ノ業務ニ於ル形状ノミナ
 ナラズ又、^堂圖ラン政務ニ関與スルノ情態ニ於ル
 モ甚ダ同轍ノトナント云フベカラズ夫レ華士
 族ノ銳意輩、初メ、^高ノ新業ニ疾進セシガ

如ク又熱心ニテ政ニ
變革ヲ欲シ却テ之レガ
タノ國^弊害ヲ醸成セル
少ナカラズ今誠ニ急
進ノ利害ヲ畧述セン夫レ急進ノ派徒ハ日本ノ
改革ニ於ル漸次ヲ以テスルヨリ寧ロ日本ノ固
有ニ異ナル西洋ノ風俗政躰ヲ一朝ニシテ全馬
セント希望シ之レヲ勸メ之レヲ圖リ只進歩之
レ勉メ自ラ以テ為ラク今世上ニ共和政治又ハ殆
ント其同一ナル政體ヲ以テ獨立セル國ハ文明
ノ高度ニ達シテ而シテ人民ノ自由ヲ極メタル
ベシ是レ全ク其政體ノ至善ナルヲ以テナリ若
シ其説ヲシテ實ニ真ナラシムバ今茲ニニ
國アリ互ニ同等ナル自由國ノ點度ニ位シタレ
氏若シ其政體慣習相異ル片ハ蓋シ同一ノ自由

國トハ云フ可カラザルベシ且夫人民ノ自由ハ
政府ノ制體ニ依テ起ルモノトセバ以上ニ云ヘ
ルニ國中ノ一ハ(英國ヲ云フ)尠シモ自由タルモ
ノナカルベシ何トナレバ其最善ナル共和ノ政
體ニアラザレバナリ然リト雖モ今余レ茲ニ之
レヲ駁スルガタメ西史ヲ閱スルニ之レニ及シ
凡ソ人民自由ノ多寡ハ政府ノ制體ニ関セズシ
テ而シテ獨リ其政體ノ基ク所ノ主旨精要ニ依ル
テラ證セリ即チ英國ヲ看ヨ其政體ニ於ルヤ中
古ノ君主專制政體ノ如ク政教一致ナルモノナ
レ氏其國民ノ自由ニ於テハ彼ノ政教ニ途ニ置
ク米國共和政治ニ妙モ讓ルナシ噫英國ハ如
何シテカ斯ニ國是
メシヤ抑モ中古●固有

政體ヲ擴張シテ縮小スルノナラン何ゾ日本ニ
及スルノ甚レキ日十八國有ノ古風舊章ヲ掃却
シテ之レニ代フルニ全ク外國ノ制ヲ以テセシ
トス夫レ英國ニ於ルノ民權ハ「コロソウエル」氏ノ
革命ヨリ起ルニ非ズ又一千六百四十九年ノ共
和政治ヨリ生ズルニアラズ古來王公庶民ニ関
スルノ權利義務ヨリ生スル所ナリ
往古ニ溯リ日本神代ノ書史ヲ閱スルニ宜ナル
我大國主ガ天照大神ノ孫ニ廣テ与レ一語
ノ金言アリ其語簡單ナレバ其言外ノ意味深尚
ニシテ而テ今日ニ至ルマデ以テ日本ノ政體ニ
於テ基礎トナスベキモノナリ其語ニ云ク吾レ此
事ヲ以テ卒ニ治印アリ天孫若シ此事ヲ用テ國

ヲ治メ賜ハ、必ナラズ當ニ平安ナルベシト蓋
シ其事ハ日本ノ大規國體ヲ示スノ記章ニシテ
而テ其語ノ深意ヲ察スルニ後世帝代ノ傳遞ニ
依テ時々其政風ノ小異ハ生スルヲアルベシト
雖氏後世天孫ノ此國ヲ治ムルモノハ此事即チ
當時ノ大規國體ヲ基トシ愆ラズ忘レズ此本原
ニ順ヒ依ルベシ若シコレヲ愆ラバ幸福安全ヲ
保テ得ルヲ能ハザルベシト云フノ後ナラン蓋
シ此國是ノ本原タルヤ當今世上ニ自由ノ最高
度ヲ占タル一國ニ於ルガ如ク英國ヲ指シテ云
フ「ナルベシ」日本從來ノ國體ヲ確言セシモノ
ニシテ而テ余切ニ誤クハ日本ガ此國體ヲ本原
トシテ治國スルニ

大
義
論

中古來文明の於て民ノ自由ハ全ク英米ノ
兩國ニ於ルガ如ク國會民會ノアルニ依テナリ
ト思フノ輩ナシト云テ可カラズ何ゾ其惑ヘ
ルノ甚シキヤ看ヨ佛蘭西ニ於テ一千七百九十
二年ニ於テ初メテ王族貴族ヲ廢シ全民ヲ同等
ニシテ遂ニ共和政治ノ政體寫セシモ是レ大ナ
ル愆ト云ベシ何トナレバ久シク王家ノ政體ニ
慣レタル佛國ノ人民ヲシテ共和政治ノ制ニ置
クハ其人民ノ性質ニ對シ甚タ過歩トナルベキ
ガエヘナリ加之ニ佛國ニ於テハ羅馬ノ舊制夕
ル共和政治ヲ寫シ來リタレバ其羅馬當時ノ形
狀ニ於ルガ如ク徐々多年人民ノ自由ヲ養成セ
シモノニ非ス又米洲合衆國ガ久シク人民ノ肝

腦ニ積蓄シタル自由ノ精神ニ基キ國是ヲ定メ
シテノト同シカラズ只一朝ニ自由ノ假面ヲ造
為セシモノニシテ而テ當時君主ノ政體ト共和
ノ法制ト其差如何ンヲ問フニ實ニ只專制獨擅
ノ權カガ議莫ニ落シノミナリキ
凡ゾ國家モ亦一身ニ於ルガ如ク性質ノ強弱ハ
遂ニ之レヲ變シ難ク縱令一時ノ變動ハアル
ニ終ニハ元來ノ性質ニ復スルモノナラン看ヨ
ヤ佛國ハ一時ノ流行ニ依リ自由ノ假面ヲ蒙リ
共和政治ノ政體ヲ寫シタレバ其原性君主國ヲ
以テ生レタルガエヘ終ニ又其性タル君主國ニ
復セリ然レバ惜ムハシ時トシテ君主ガ兇徒軍
人ノ手ニ在リ而シテ民ヲ其忍ブ可カラザル

壓制ノ下ニシテ
宜ナル哉大英國常ニ其舊章ヲ愆ラズ國體ヲ變
セズ一時人心ノ變動ハアリシニモセヨコロンウエ其
制體ノ外貌ニ關セズ只其眞實ナル自由ノ精神
ヲ擴張シ最高ナル自由ノ日月ヲ娛樂シ彼ノ佛
蘭西ニ於テ一時施セシガ如ク過激ニ人民掌權
ノ制體ヲ造為セズ徐ニ民權國ノ主旨ヲ確定セ
リ此レ其主旨タルヤス矣ンゾ知ラン日本ニモ
亦數百年ノ前ヨリ固有セザルニ非ズ家康言アリ
民ハ國ノ本民ナクンバ政府ノ立テアタハザル
ハ必然ノ理ニシテ而テ日本ノ風ニ於テ最者人
民自由ノ何物タルヲ知ラザルノ頃ヨリ人望ノ
帰セルモ其民ヲ統御スルノ習俗ナリシガユヘ

其精神ハ却テ佛蘭西ニ於ルヨリモ自然人民ノ
自由ヲ許セシモノナラン
夫レ今ニ至ルマデ佛蘭西其他各國ニ時々行ハ
レタル種々ナル政府ノ制體ヲ看ルニ一トシテ
未路ニ弊害ノ生ゼザルモノハナシ現ニ其國ニ
害アルト見ユル制體ハ置テ論セズ然リ而シテ其
弊害タルヤ尤ト制體ノ缺ヨリ生ズルニ非ズ其
制體ノ本原主旨ニ及スルヨリ起レバナリ而シテ
政府ノ制體ニモ各種アレバ其本原タル主旨
ニモ亦各種アリト雖モ抑モ人民ノ連結シテ其
國ヲ立ルニ於テハ實際其ノ各種ニ於テ尠モ差
異アルトナク只學問ノ理論上其外貌ニ於テ各
種ノ異同アルニシテ其一例ヲ舉レバ支那ノ

制體法憲ニ一ニハ其ノ民ノ等級ヲ嚴ニ區別セ
 リ米國ハ之レニ及ビ二國其政體ノ差アルヲ論
 ラ待タズ然リ而シテ其ニ國民間社會ノ形
 状ヲ察スルニ實際ニ於テハ二國社會ノ制體ニ
 差異アルヲ尠シ何トナレバ夫レ支那ニハ天子
 アリ四百餘州ニ君臨シ無限ノ權力ヲ握リ貴
 重ノ責任ヲ帶ビ國政ヲ專制スルト雖モ若シ一
 朝人知ラ失ヒ民心離叛シタルハ宗族一舉ニ
 滅シ社稷祀ヲ絶テ民ノ好ムモノ興テ而シ民ノ
 惡ムモノ亡ブ是レ今ニ至ルマデ二十四朝ノ
 興亡代替アル所以ナリ又米國ヲ看ヨ一人ノ大
 統領アリ民望ニ依テ撰舉セラレ行政ノ權ヲ握
 リ貴重ノ責任ヲ帶ビ三十二州連衡ノ政ヲ統轄

スルヲ恰モ支那ノ天子ニ於ルガ如シ支那ニ公
 侯伯アリ大臣アリ百官アリ博士アリ或ハ其封
 爵ヲ安シ或ハ其功名ヲ樂ミ攷トシテ永ク其
 觀望ヲ維キ此レヲ遠ク世襲セント欲スト虽モ
 豈悉ク之レヲ得ヘケンヤ多クハ幾モナクシテ
 失錯又ハ納賂ノ臭聲アツテ其封爵榮名ヲ失フ
 モノナリ然レバ乃チ其榮達タルヤ僅ニ名望ノ
 維持シ得ル時間而已ニシテ而シテ一旦其名望絶
 ハハ夫レ之ヲ如何セン則米國ニ於ケルモ亦然
 リ公司顯官アリ豪戸富門アリ或ハ其權カヲ持
 シ或ハ其富財ヲ樂ミ或ハ其出群ヲ喜ビ各永ク
 之レヲ維持セント欲スト虽モ一旦不圖ノ不幸
 アルカ又ハ管里ノ工官又ハ天運ノ巡環ニ依テ

權力モ富財ニシテ且有ニ附シ又舊業ノ凡群
ニ歸スルヲ常トス請看ヨ二國社會ノ形状ニ於
テハ互ニ相類似スル如此
凡ソ此世上ニ二國相均シキ所ノ制體ヲ以テ政
府ヲ立テシモノ幾ント稀レナリ若シ縱令一
ル氏乙甲ニ效ヒ甲乙ヲ寫セシモノニ非ズ類似
ハ互ニ偶然ニ出デタルモノナリ今一歩ヲ進メ
テ其類似スベキノ原由ヲ尋ヌルニ凡テ善良政
府ノ依テ立ツベキ道ノ本源即チ治ノ要旨ニ於
テハ皆互ニ相同シキガエナリ之レヲ詳言セ
ンニ外貌異テ其精神ハ一ナリト云フガ如シ而
ノ其要旨ニ於ルヤ此地球上ニ能ク制定セル人
間社會ニ住ムノ人ヲ皆同權同等ニセント欲ス

氏豈夫レ得ベケンヤ易ニ云ク天ノ澤タルベカ
ラズ澤ノ天タルベカラザルガ如ク上下各其
分ヲ得ハ則チ民定志アリト若シ斯ル條理ヲ今
一層推究セントセバ此レヲ明解セシモノ救擧
ニ暇アラズ
噫此ノ人間社會ニ於ルヤ人ノ心慮上ニ関シ是
レ善是レ理是レ真是レ美一日モ欠クベカラズ
シテ而ノ即チ天性之レヲ附與シ又人々之レヲ
好ムノ常ナリ然レ氏其天性ヲ擴充全美スルハ
各箇人々ノ只連合スルノミニテ能ク之レヲナ
シ得ルモノニ非ズ人ノ社會モ亦此全世界ニ於
ルガ如ク同ク教主ノ管轄ヲ受クベキモノナル
ベシ夫レ天地間ニ活シテ各社會ヲ連結ス

ルモノ禽獸ニ至ルニテ何程カノ權利ヲ有シ精
 神微妙ヲ具ヘルモノナレバ未タ皆同等ノ權利
 アルヲ看ズ然ラ其生活物タルハ一最大會社ノ
 社員ノ如ク一大製作場ノ工夫ノ如シ其製場ニ
 於テハ各負天賦ノ性質ニ從ヒ各種ノ事業ニ就
 キ生涯ノ業ヲ営ム所ノモノナリ之レニ依テ之
 ヲ推考スルニ人ノ此世ニ在ル天賦ニ依テ他ノ
 動物ヲ屬下ニ使役シ其用ニ供シ得ノ權利ヲ有
 セズンバ恐クハ人ノ生活ヲ保ツ能ハザルベシ
 此故ニ世上ノ人々ヲシテ若シ皆同等ノ位置ヲ
 占メ同一ノ權利ヲ與ヘ同量ノ貧富ヲ保クシノ
 シトノ主旨方畧ヲ普^ク世間ニ施サントセバ恐ク
 ハ全社會ヲ滅スルニ至ルベクシテ而メ此主旨

ヨリ人間ノ争戦ヲ引起スニ及ブベシ假令ヘバ
 婦女ハ天性ニ於テ男子ニ劣ルモノナレバ之レ
 ヲ同權同等ニセントシ或ハ君王及ヒ貴族ノア
 ル國ニ於テ斯ル貴重ノ位階ヲ廢セントシ遂ニ
 祖先^ノ傳來セル所ノ富財ヲモ人々皆平均ニ
 ントスルガ如シ則五年ノ前佛蘭西^ノコンミウ
 黨ノ争亂ニ於テ其覆轍知ルニキナリ抑モ此平
 均說ノ主意ヲ主張セバ人ノ賢愚共ニ勉^ク惰ニ依テ
 得タル所ノ利益或ハ權力ニ多寡アルモ亦不公
 平ト云ノ理ニオヒブベクシテ而メ此人間社會
 ニ於テ此平均說ヲ實際ニ施ス^ル能ハザルハ昭
 々乎トシテ明カナリ凡ソ此社會中ノ各負皆同
 等ナラザル^ト古^ク各國ニ於テ其証ヲ示スニ

足レリ支那ハ之レ
 慣習ニ於テ然リトス此ニ國ニシテ其不平等不
 平均ノ主旨ヲ一朝ニ廢止セハ豈社會ヲ保テ得
 ベケンヤ
 支那ノ古語ニ云ク國家ノ最高位ハ國ノ後傑ニ
 歸セズンバアル可カラズト特ニ故アル我支那
 ニ於ルヤ今ニ至ルマテ人民中自ラ博學士ト暗
 昧者ト其等差ヲ分ツテ米國ノ貧富ニ依テ人民
 ノ等級ヲ分ワガ如シ夫レ後傑位ニ在リ民
 クニ善ヲ以テシ之レニ教ユルニ道ヲ以テセバ
 下民ヲシテ幸福ヲ保全セルムルヲ論ヲ待ズシ
 テ而ノ其主旨ヲ擴充シ之レヲ長ク政治ノ要治
 要領トスルニ當リ人民ノ不平等不平等ハ支

那ノ國是ニ於テ大益ヲナス所ノモノト云ベシ
 然ト雖氏惜ムベシ漸ク支那ハ衰態ニオヨビ在
 上ノ君子其私利ヲ營マンガタメ不平等不平等
 ノ主旨ヲ以テ収歛貪暴ノ利具トナシ壓制難忍
 ヲ極ムルガユヘ其大害實ニ言フ可ラズ
 奚ンゾ知ラン米國ニ於ルモ亦此レニ均シキノ
 覆敵アリ今ヲ距ル百有餘年ノ前歐人ノ落魄流
 漂レテ偶々米國ニ來リ足ラ此國ニ止クルニ當
 テ忽チ土人アノリカトト戦ヒ之レヲ逐テ各所ニ其地
 ヲ占メ白人各々勉力シテ木ヲ伐リ地ヲ開キ農
 耕是レ樂メリト雖氏此時ニ當テ各人危険ノ
 位置アリシガユヘ之レヲ防ガンタメ各人漸ク
 連共シテ社會ヲ結結意急相救ハントセリ然ル

ニ其共同ノカラ以テ全社會ノ利益ヲ圖ルト雖
氏人ニハ強弱勤惰ノ差アリ甲ハ乙ヨリ能ク勉
強シ丙ハ丁ヨリモ能ク力ヲ盡ス等ノ差アルハ
自然ノ理ニシテ各々其社會ニ盡スルノ成果ニ
多少厚薄アルニ隨ヒ各員ノ不同權ト不平均ヲ
生セリ茲ニ於テ各員相競フテ田野ヲ闢耕シ已
ムトナク遂ニ全國ノ物産ヲ増殖シ社會ノ大利
ヲ起セシテ盛ナルニ至リ而シテ漸ク時日ヲ經
過シ社會ノ需要モ漸ク足り互ニ相救フベシ
難ノ患モ漸ク消スルニ及ビテ各員各自ノ利益
ヲ得ント念ヲ發シ互ニ相競争シテ甲ハ乙ニ優
ルノ利ヲ得ントシ乙ハ甲ニ劣ルニカラザルノ
益ヲ起サントシ各一己ノ為ニシテ其心カラ盡

シ甚シキハ他人ヲ倒シテモ己レノ益ヲ圖ラン
トスルニ至レリ
之レニ依テ之レヲ觀レハ方今世上ニ最舊ト稱
スル國ニ於テ^{支那}政體モ最新ト云フベキ^{米國}社
會ニアルノ法制モ兩ナカラ其本原基礎ハ殆
ト同一ニシテ而シテ初メ之ヲ制定セシヤ唯善之
レ則リ全社會ノ維綱ヲ張振セシニ豈圖ラシ年
ヲ經ル久シク風俗人情ノ衰態ニ及シテ往昔國
初ノ制定セシ良制美法モ却テ流弊至害ノ媒ト
ナレリ然リト雖氏抑モ其弊害ヲ生シ来レル原
由ヲ尋ヌルニ元素ノ政體ニ弊害アリテ其感觸
ヲ起シ来セシニアラス全ク後世其政體ノ主旨
精要ヲ失フヨリテ其弊害ヲ發見セシモノナリ

大 歲 省

ベシ而メ各國其主
シバ以テ能ク其國家ヲ統治スベク能ク民人ヲ管
理スルニ千歳不易ノ良具ニシテ一日モ欠クベカ
ラザルヲ必セリ

以上陣述セシ如クイブレノ國ニセヨ後世其政
體ノ主旨精要ヲ失ヒ法制上及ヒ倫理上ニ於テ
大ナル弊害ヲ現出セシハ則チ是レ當時ノ政
司ガ機ヲ察シ時ヲ窺ヒ徐々ト其惡弊ヲ改化セ
シメ其害根ヲ絶タシメシメテ方畧ヲ運シバ
バアル可ラス然リ而メ其方畧ヲ施スニ於テハ
唯其革メザルヲ得カタキヲノミテ先トシ其事
ニ處スルハ小心翼翼ニ注意シテ尠シモ誤
ラザルヲ專要トスベシ若シ又不然シテ徒ラニ

進セバ凡ベテ法制改革ニ於テ其政體ノ要旨ヲ
失ヒ遂ニ其形貌ヲモ誤ルニ至ルベクシテ蓋シ
若シ其要旨ト形貌トノ區別判然タレバ敢テ其
變革ヲ要スルニモ及バザルニキナリ而メ其變
革タルヤ一旦ニ政府又ハ社會ヲ運轉スル可
大機械ヲ擾乱シ其結局ハ當時人民ヲシテ其不
要不便ナル法制倫理ノ中ニ任セシムルニ至
リ全社會ノ損害ト悲嘆ヲ引起スベシ之ニ依
テ熟ラ之レヲ考フルニ只若シ其改革ノ熟時好
機ヲ窺ヒ之レニ着手セハ大過ナカルニキナリ
ナラズ富國ノ基ニ國力ノ本人民ノ幸福ヲ立成
スベクシテ而テ益シ其要旨ヲ以テ全社會ニ施
行セバ國家統御ノ要旨ヲ得永ク太平ヲ保ツル期

シテ待ベテナリ
譬へバ簡畧ニ組立タル身體ノ機關ヲ育スルノ
動物ハ却テ其疾病憂恙ヲ防クニ甚タ容易ナレ
氏人身ノ如ク其機妙巧ニルモノハ之ニ及シ其
ル之レヲ防クノ實ニ難カルベシ若シ人身ノ慣
習容儀ニ於テ少シタニ舊ヲ改メ風ヲ變ゼハ敏
ク感覺タルガエヘ之レカタメ或ハ病ヲ發シ或
ハ死ニ至ルナシト言ベカラズ噫中世以降進
歩セル開化ノ道ニ於ルモ亦夫レ然ランヤ夫道
ノ本原タル精義密細ナル元素ヲ以テ組立シモ
ノエヘ實ニ百事ニ感シ易スキテ古エ簡素ノ道
ヲ以テ治國セシガ如キニアラズ之レヲ用ユレ
バ以テ進歩ヲ致シ之レヲ謬レバ以テ弊害ヲ生

シ之レヲ防クノ豈易カラシ之レヲ詳言センニ
其道ノ原性軟弱ニシテ而シテ余ヲ以テ之ヲ觀
レバ僅々微々タルノ震動以テ之レニ感ゼシム
ルニ足ルベシ夫レ英佛ノ如キ開化ノ高度ヲ占
メタル國內ニ於テ若シ僅カハ日間ノ争訖ダ
アレバ其損害算ヘ難キヲ論ヲ待タズ一週日ヲ
出ズシテ錢路々断ヘ高旅行カズ工業ニ資金ヲ
委スルノ輩ガ其利ヲ失ノミニテモ人民ノ富ヲ
害シ財ヲ滅シ而シテ之レヲ回復スルハ又幾多
ノ歲月ヲ積マズンバアル可カラズ素ト西洲ノ
開明タルヤ精密細美ノモノニシテ人民能ク其
道ニ信倚シ其要旨體面ノ兩ナガララ全シ得レ
ニ非レバ其道ノ方向ヲ執リ之レニ進ムトアタ

ハザルベシ尚一步ヲ進メテ之ヲ言ハン國人
ガ文明機關(文明ノ政體風俗ヲ云)ノ何物タルヲ
能ク了解シ之レヲ運轉スルノ方術如何ンヲ熟
知スルニアラズンバ豈之レニ着手シ得ベケン
ヤ而シテ其細美機關ノ何物タルヲ知ラシメ其
運轉術ノ如何ヲ學バシメントセバ宜シク耐忍
注意時ヲ待ツトノ三事ニ在ルベシ

看ヨヤ佛蘭西ガ七十年ノ前輕舉シテ羅馬共和
政治ノ政體ヲ寫シ其要旨ニ着目セズシテ其體
面ヲ誤リシガエヘ全國ノ騷乱ヲ釀成シ一十七
百八十九年ヨリ一千八百十五年ノ頃迄ハ殆ン
ト皆其工業ト商務ヲ止ムルニ及ベリ之レニ及
シテ其際英國ハ自由ノ精神ヲ全フシ文明ノ要

旨ヲ採リ體面ニ關セズ政治ノ根元ヲ固フレ盛
華ノ基礎ヲ定メタリキ支那及米國モ亦可惜哉
嘗テ政治ノ要旨ニ着意スルヲ忘レシガエヘ
中原一弊害ノ萌芽ヲ生シ若シ此根ヲ絶ズンバ
恐クハ遂ニ支那ニハ其衰亡ヲ來タシ米國ニハ
其進歩ヲ妨クベキナリ

誠ニ問フ日本ノ形状モ亦歐米洲ニ於ルガ如ク
シテ而シテ歐米ノ轍ヲ以テ日本ノ駁鑿トナシ得
ベキ乎將タ西東ノ形状相同シカラザル乎答
テ云ハン敢テ論ヲ煩ハサシテナリ何ントナレ
バ茲ニ史ヲ按シ日本ノ形状國風ヲ視ルニ其歐
米各國ト相異ナルト判然トシテ而シテ西洲ノ形
状ヲ以テ之レニ比較スント欲ト雖モ豈得ベケ

シヤ是レ西方ノ論者ガ日本ノ國體ニ關シ多年
論述スル所ノモノナリ日本ハ二千年ノ前建國
開祖ノ神武天皇ガ其國是ヲ定メ政統ノ基ヲ立
シニ非ズヤ故ニ日本ノ政司ガ若シ其君主ナク
シテ能ク治國ヲナシ得ベシトノ思想ヲ起シナ
バ是レ大ナル誤謬ヲ生ズベシ然リ而シテ人
民其君主ヲ離レテ治國スル片ハ縱令暫時平和
ノ際百事ヲ統轄シ得ルト雖モ一朝厄運ニ際會
セバ忽チ大負債ヲ償却セズンバアル可テザル
ニモホヨビ遂ニ政司國民皆互ニ紛議ヲ生スベ
シ如何ントナレバ君主ノ統治ニ非レバ其政府
ハ一塊ニアラズシテ而シテ各箇別種ノ分種ヨ
リ成立ソベキカユヘナリ

夫古征服セラレシモノハ此國也討伐セシモノ
ハ一君盛シナル哉神武ノ西征東伐スルヤ至ル
處風靡シ其需ルトコロ足リテ而シテ各部落ヲ
力制シ之ヲ連子之レヲ^統統ブルニ重介大
刀ヲ以テ^{按獨裁ノ權}カヲ云ナリセリ是レ其大刀ハ神武帝
ノ築造セシ大厦ノ棟梁ニ置ク所ノモノナリ然
レニ後世若シ其重介ノ大刀ヲ動カレ國民連合
ノ主要ヲ改易セントセバ恐クハ其連結ノ強カ
中心ヲ失フニ至ラントテ夫レ當今日本ハ尚
人民ノ力ヲテ連結スルモノニシテ只全ク薩長
肥其他強藩ノ同盟會社ノ手ニ整成セラレタル
モノト云モ可ナランカ而シテ斯ル同盟社ノ協
力意ニソラズンバ何モ公益ヲ圖ルノ舉動ヲナ

シ難カレシ然リ而ノ曩キニ一時ハ其會社ノ
社員モ悉ク協同スレテ張ハザルニ似タリシト
アリト虽氏果シテ信ゼシ如ク四五年前ヨリ其
社員皆戮カシテ全國ノ盛衰ヲ圖リ其攷々トシ
テ從事セシモノ漸ク光明ノ花ヲ現セリ只未タ
其盛衰ノ熟果ヲ結ブニ及ハザルノミ然レテ其
結果ヲ成サシメントスルニ於テハ尙帝國政府
ノ舊制遺風ヲ要スルヲ必セリ
若シ日本ヲシテ支那ノ如ク境土廣大ニシテ各
州分據ノ勢ヲナシ之レヲ整頓スルヲモテハ
ザルノ邦タラシメバ以上ニ陳述スル連結ノ強
力中心ヲ敢テ要セザルベシト虽氏日本ハ之レ
ニ及シ其國天然ノ地位ニ於テ四圍洋表ニ屹立

之ニ加ルニ人民常ニ獨立ノ元氣ヲ有シ時
トシテ其黨派ヲ分ツニセヨ（縦令外患アルモ其
氣象ヲ以テ其侵凌ヲ防グニ足ルベシ然リ而ノ
只惜ムベシ小嶋孤立スルキハ其勢ヲ殺キ其力
ヲ弱ムルノ理ナルニ日本ハ一大嶋ニ非ズシテ
數千ノ小嶋嶼ヨリ成立モノナルガエハ各嶋獨
立シテ各自ヲ保護スルヲ豈得ベケンヤ然ラバ
乃テ之レヲ保護スルノ方畧如何ント問ハバ一
君主一政府ヲ以テ合衆ヲ統轄セシムルニ如
ハナキナリ
又日本ハ今危險ノ位置ニアルヤ如何ント問ハ
バ真ナル哉方今歐米ノ強國ヨリ侵入サルハ
患ナキニ論ヲ待ザルナリ獨リ顧慮スベキハ近

傍ニ一ノ國アル而已何ヲカ顧慮スベキノ國
ト云曰ク魯西亞其ハナリ彼レ日本ニ近交スル
不虽氏其志小ニ非ス驚翼ヲ東西ニ張り吞小併
弱ノ念ヲ抱ケリ夫豈畏レサル可ケンヤ抑モ魯
國ガ日本ト友誼ヲ結ブ所以ノモノハ深ク其志
レ所アラシク予之レニ次クモノハ朝鮮ナリ是レ
微々タル一小國ニシテ今敢テ之レヲ意トスル
ニ足ラスト虽氏其國ノ位置ニ於テハ日本ヲ顧
穎スルノ輩ガ遂ニ逆志ヲ逞シテ東南嶋嶼ニ及
ボサントスルノ措梯トナサントテ恐レハキモ
ノナラン又之レニ次クモノハ支那ナリ何トナ
レバ彼レノ今日ノ形状ニ於テ素ヨリ憂ル所ナ
シト雖氏若シ彼レ一朝蘇生シテ天下ノ耳目ヲ

改ムルニ及ビナハ是レ實ニ宜シク眼ヲ注クベ
キ所ノモノナルベシ然リ而テ彼レ蘇生セント
欲スルニ當テハ多ク時日ヲ費ヤシ且一英主
ノ出ルアルカ或ハ良相ノ輔翼アツテ之レヲ療
スルニ非ラズンバ之レヲ挽回スルト難カルベ
シ故ニ恐クハ到底維新ノ期望ハ絶タルト言モ
可ナランカ然レ氏是レ得テ成スベカラザル事
ニアラザレバ也之レニ由テ日本ハ宜シク後來
ノ慮リヲナシ必ナラズ支那ノタメ後患ヲ蒙
ザルトノ計ヲナサズンバアル可ラス且今日本
ハ彼ノ古ハ既ニ光榮ノ地步ヲ占メ深ク自負セ
シ所ノ支那流ニ及シカタテ西洲ノ開化ヲ罵シ
東洋ニホル文明國ノ魁首タラントテ自許シ遂

ニ至最ノ汚辱ヲ其支那ニ與ヘタルニ非ラズヤ
是レ支那ガ常ニ忘ルル事キノ耻ト云フベキモノ
ナリ（按ニ明治七年ニ於ル北京ノ談判ナルベシ）
聞ク支那ハ徐々ト雪耻ノ策ヲ運ラシ漸ク其整
装ヲナスト云若シ縱令其志ヲ今世ニ果スル
タハザルモ後世遂ニ之レヲ遂ケント企ツベシ
斯ニ於テヤ日本ハ支那ニ關シ其位置如何ヲ占
ムベキ乎將タ支那ト合従スルヲ上策トスベキ
ヤ曰ク否是レナサント欲スト雖得ベカラザル
モノナラン然ラバ乃チ他日兩國ノ際ニ不測ノ
敵抗ヲ生ゼスト云ベカラズ何トナレバ日本ノ
義務世上ノ面目ニ於テ支那ニ對シ至難ノ方畧
ヲモ運ラサバハ一ヲ得ザレバナリ之レニ及シ

大藏省

今支那政府ガ喋々口ニ唱フル所ハ日本ニ對
シ之レニ敵スルヨリモ寧口日支ノ連衡ヲナシ
萬全ヲ保ツニ如カズト曾テ聞ク前年ウヰンシヨ
アン氏（按ニ支那貴官ノ一人ナルベシ其石氏ノ漢
字如何ヲ未詳ニセス）柳原公使ニ語りシニモ亦
此意ヲ以テセリト云然リト雖氏余ヲ以テ之ヲ
觀レバ此言ノ信シ難キヤ甚ダシ恐クハ支人ガ
一時ノ急ヲ免レンタメ假面ノ甘言ヲ吐キシ
ナルベシ夫レ支人ハ甘語權術ヲ以テ常ニ世
ヲ籠絡シ又其光榮ノ他國下ニ在ルヲ甘シ其際
燒眉ノ急ヲ免レントスルノ通情ナリシガ近時
少シク其情態ヲ變セントスルガ如シ（日本ト合
従ヲ需ハルガ如キ恭謙ノ状アルニモセヨ）而シ

テ異日充分ノ威カラ得萬國ヨリノ侮ヲ大ニ禦
グニ足ルノ秋ニ當 初メテ平生ノ不平ヲ洩シ
多年枉屈セシ所ノ妬念ヲモ露出スニ及ブベシ
然リト雖モ是レ實ニ万一ノ挽回ニシテ而シテ
敢テ日本ヲ害スルニ至ルコトアル可ラズ
語ニ云敵國外患ナキモノ其國常ニ亡ブト故ア
ル哉此言ヤ夫レ充分ニ保護セント欲スル已レ
ノ國ヲ覬覦スルモノアラバ却テ是レ自國ヲ守
衛スルノ途ヲ得ベシ凡ソ人間ノ百事一身上ニ
於テモ亦敵抗ノ恐レアルハ實ニ其身ノ良藥ト
モ云ベケンカ又之レニ及シテ縱令兵食足ルモ
強ノ國ニ於テモ若シ尠モ敵抗ノ患ナク何モ顧
慮ノ惶レナキ片ハ奚ンゾ知ラン其國ノ元氣ハ

消滅スルノ緒ニシテ國力ハ衰落ニ至ルノ始メ
ナリ之レニ依テ之ヲ觀レハ日本ハ常ニ敵國ノ
患ヲ忘レ難ク自衛ノ藥石ヲ具スルモノニ
而シテ後年形状ヲ通察スルニ海陸軍ノ力ヲ擴
張シ果シテ東洋ニ威カラ逞ラスルハ期シテ待
ツベシト信スル也茲ニ於テヤ日本ハ立帝政府
ノ制體ヲ以テ最可最適トナレテ而シテ民治政府
ヲ以テ至難至惡トナスベシ何トナレバ凡ソ民
治國ノ經驗ニ於テ著示スル所ノモノハ彼ノ民
撰公舉ノ法ガ至難ノ極ホニシテ之レヲ以テ強
國ノ基礎ヲ立テ得難ク有力政府ヲ發生スルノ
成果ヲ呈スルコトアタハザルモノトス米國ハ民
治ノ極ホヲ占ムルモノナレ氏近時米人ハ公河

ノ吏負ヲ舉クルニ民撰ヲ以テスルノ弊害ヲ通
曉スルニ及ベリ例ハ米國民撰公舉ノ地方吏
法司ニ於ル其弊害ヲ生スルヲ舉テ云可カラ
ス然リ而メ將帥ノ下ニ於テラレ海陸軍ニ於テ
ハ未ダ曾テ其弊害ノ生セシメナシ外交事務官
ニ於テハ又之レニ及シ流弊習害一目シテ知ル
ベク蓋シ米國ノ如キ外務官ノ惡弊アルハ未ダ
世上ニ視ザル所ナリ當今ノ大統領ハ能ク其弊
害知リ深ク之ヲ患ヘ却テ帝治政府ノ旨要ヲ借
リ稍^ニ力制整管^ヲ新制^ヲ改定シテ斯ル弊害ヲ
一洗セントノ意アリト云
凡ノ民治ノ主意ニ於テハ軍隊タルモノアルベ
カラザルノ理ナラン乎縱令アルモ其功力必ラ

大少ナカルニ何トナレバ全國ニ君主ナキハ
完民ノ知ル所ニシテ其民ヨリ編成セル隊伍ノ
整管ハ得ガタクシテ而メ整管ナキ兵隊ハ弱キ
ガ故ナリ又民撰ヲ以テ政府ヲ立定スルノ社會
ハ必ナラズ強大ノ力ヲ存シ難ク其弱キハ恰モ
コルプデアルノ一隊^{羅馬ノ軍隊ノ名其隊ノ法トシテ}
ケレガ如クナルベシ何トナレバ一タビ公撰ニ
當テ統領タルモノハ其滿任ノ后再撰ニ失ナハ
シ^夫ラ恐レ唯部下ニ諛テ之ヲ整管スルノ途ヲ
患^ルベキガユヘナリ幸^ニルカナ米國ハ帝ニ其
疆土廣大且其地位ノ良キノミナラズ種々ノ理
源ニ依テ外患少ナキガユヘ敢テ有力ノ政府ヲ
要セズ然シテ須要ナレ政法ノ改定等モ唯人民

大藏省
ノ企ツル所ニシテ之レヲ行為スル又甚ダ易ク
政府ノ擔任又甚タ輕シ例ヘバ合衆國ノ租稅ヲ
收入シ驛遞院ニ於テ之レヲ領蓄シ成規ニ準ヒ
之ヲ配置スルノミニテ中央政府ノ公務ハ殆ン
ト盡セリトスルガ如シ夫レ之レニ及シテ日本
ノ人民ハ只谷僅ニ其日用生活ノ供給ヲ需ムル
ヨリ何レ他ノ望ナク空シク幾千年ヲ經過セシ
モノナリ然ルニ今其人民ヲ以テ一朝ニ農工商
事業ヲ更新シ理財立法行政ノ體裁ヲ改易セ
ント欲スル豈容易ナランヤ之レニ如ケルニ日
本ノ如キハ異日地球上ノ一局表ニ於テ光華ノ
面目地ヲ占メント欲スル大着眼ヲ有シ深謀遠
慮ノ大畧ヲ施サントスルニ當テ豈米洲ノ只連

邦ヲ維持スルト同日ニ論ンズ可ケンヤ
斯ル遠畧アルノ國ニ於テ其民ヲ治ムルヤ恰モ
魂魄頭腦ガ宰トナツテ其欲スル所ニ從ヒ自由
ニ全身ヲ運轉スル生活人體ニ於ケルガ如クナ
ラズンバアル可カラズ然シテ其國ノ魂魄即チ
所謂宰タルモノハ宜シク全國ノ賢才一ニテ舉
ゲテ之レニ任ゼシムベキナリ然レ氏其人員ハ
最モ少ナルヲ要ス夫レ其職タルヤ當世ノ人情
ト通知シ全國ノ興廢ヲ洞察シ人民ノ先覺ヲ育
シテ而シテ皇帝ノ輔翼タルベシ又皇帝ハ自國ノ
俊傑ヲ左右ニシ億兆ニ君臨シテ以テ民ノ幸福
ヲ圖ラバ是レ則チ最良ノ政府ヲ立定スベキト
疑ナシ

噫日本ノ今日マテ開化セシモノハ夫レ誰ノ力
ナル乎蓋シ貴族政治ニ依ラザルハナシ而シテ
其實効ハ僅カニ二三ノ手ニ成リシナリ然ラバ
則テ此開化ヲ維持シ此レヲ保護スルモ亦貴族
政治ニ附セズンバアル可カラズ今又一步ヲ退
キ其國ノ開化ヲ進メ國光ヲ輝カシタル政府ハ
如何ナク分子ヨリ成立タルヤト云ハバ豈他ア
ラン全國ノ俊傑ナリ然リ而メ唯余ガ憂フル所
其俊傑ガ日本建國ノ體裁ヲ殆ント忘ルニ
至ラン一ヲ建國ノ體裁トハ何ゾ日ホハ當天
皇ノ太祖ガ之ヲ創建シ其他當貴族ノ祖宗及ヒ
當時人民中ニ卓出セシ秀俊力ニ成リシト云
ナリ今日日本ノ人民ヲ通觀スルニ三千五百万余

人中國ヲ憂ヘ政ヲ論スルモノ幾人カアル下民
エ手下高小農等ハ殆ント皆暗昧ニシテ自國ノ政體
政風如何ハ之ヲ知ルモノ尠ナシ而シテ英君ノ
出ツルアツテ至盛至大ノ事業ニ着手セント欲
スルハ必ス信任在位ノ明哲大臣貴族相謀ル
ニアラズンバ懼クハ其成功ヲ遂ゲ難シ宜ナル
哉萬世ニ統ノ帝系コ、ヲ以テ太平ノ基礎ヲ立
テ永ク國安ヲ圖ルニ足ルベシ夫レ一統帝系ノ
國ニ於テハ帝家ノ命運ハ即チ全國ノ命運ニシ
テ而シテ積時ノ圖畧ヲ漸次施行シ事業ヲ永ク
皇孫皇族ニ傳ヘ以テ万世ノ光榮幸福ヲ圖ル所
ノモノナリ又之レニ及シテ一代ノ事業ヲ一代
ニ遂ケントシ前代ノ業ヲ後ニ續クニアタハザ

ルノ政體按ニ合衆國ヲ云テリニ於テハ譬へバ昨日ニ死セシモノハ今日ニ生ルト云ガ如ク事業世々相及シ一人一代ノ命運ヲ以テ時々國ノ命運ヲ緩急スルガエハ國ノ安寧ヲ不朽ニ傳フルヲ難カルベシ或云ク今立法議會ハ日本ニ須要ニシテ而ノ一帝獨裁又ハ貴族政治ニ卓タリト何ゾ其惑へルノ甚シキヤ抑モ議會ハ一大人ノ獨裁スルガ如キニ非ズ其定議ノ過誤ヲ防クヲ甚ク難シ親裁中治ハ之レニ及シ若シ過テアルモ唯改ノ一字ニ已ムノミ夫レ當今元老議院ノ設置アルト雖氏開堂ノ片貴重ノ帝詔アリシノミニシテ未ダ現然タル實効ヲ聞カズ又立法ノ大權ヲ握シ確乎ト立院セシモノナルヤ否ハ余之レヲ信スル

アタハズ懼クハ敢テ深遠ノ慮リアリシニ非シテ卒爾ニ立定セシモノナルベシ然レ氏今又一層之レヲ昇セテ下院ヲ設立セントレ農工商ノ平民及ヒ文學ノ士ヲ以テ議負ニ充クシムルノ許サバ縱令其議負ハ暫ク才學ノ人ト認ルニセヨ其入院スルヤ忽チ已レ一身ノ名望ト榮利ノミヲ是謀リ神孫岳統ノ帝家ヲ保護スルノ念ヲ忘却スルハ必セリ

熟ラ惟ルニ日本全國ノ公益ハ即チ王室ノ益王室ノ災害ハ即チ全國ノ公害ナルガエハ國安ヲ圖ラントセバ即チ立帝政府ノ有力制體ヲ保存シテ懲ラザルニ如クハナシ是レ全ク國ノ命運ヲ固メシ民ノ幸福ヲ保ツノ途ナリ唯惜ムラク

ハ此制體ニ於テハ聰明英智ノ天子アルニアラ
ズンバ治安ヲ難シトストノ疑團アルヲ免レバ
然レモ余一言以テ之レヲ破ラシト曰ク天ノ祐
ルノミ且夫レ縱令ニ王業ニ万一ノ過失遺漏
氏左右ノ良弼アリ帝績ヲ輔佐シ天下ヲ以テ已
レノ任トナスガエハ敢テ此一點ニ疑ヲ煩ハス
ニ及バザルベシ幸ナル哉日本ハ門閥ヲ論セ
ス英才ヲ登庸スルノ良風ト(他國ニ違フテ)萬世
一統ノ美制アルニ由リ帝ニ賢明ヲ朝ニ滿ルノ
ミナラス又專恣ノ徒ヲシテ帝位ヲ奪フ及乱ノ
逆心ヲ絶タシメタリ茲ニ於テヤ素ヨリ建國ニ
千有餘年来聯綿タル帝系ノ王室ヲ確乎不拔ト
シテ万歳ノ不朽ニ傳ヘ而シテ全州ノ公益ヲ圖リ

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄贈

近時行為スル所ノ須要ノ事業ニ愈ヨ舊章國體
ヲ基トシテ徐々着手アラント之ヲ信スル也
今日本ガ開明ノ高處ヲ占メ富强ノ國光ヲ放ツ
ントカレノ素志ヲ達セント欲セバ以テニ續述
セシ所ノ則度ニ依ラズンバ將ト何ノ路カアル
凡ソ事業ハ急進ニ遂ケズシテ漸行ニ成而シテ
其漸行ヲ成スハ嚴ナル舊典ヲ愆ラス之レニ依
準セズンバアル可ラズ蓋シ日本ノ人心ハ其國
體ヲ忘レザルベシト信ズルトハ雖モ尚才且シ
ク常ニ記念スベキハ七百年前ニ一旦國典ヲ固
守セズシテ帝權ヲ武門ニ落シ争乱ノ不絶ニキ
リナリ是レ乃チ過去ヲ以テ未來ノ監トナスノ
一ニ非ズヤ之ヲ以テ之ヲ觀レバ政府ニ依テ國

大正十一年四月

ノ農工商業ニ感觸ヲ起ストノ問題モ亦熟考ノ
後ニアラズンバ適宜ノ判定ヲ与フルアタハザ
レベシ余忌諱ヲ憚カラズ辨説ヲ吐露ス希クハ
聊カ當世ノ事務ニ適センヲ

